

経済指標解説

2014年7月4日

主要な経済指標の発表予定と予測

(7/7~7/11)

経済調査部エコノミスト

坂中弥生

03-3591-1242

yayoi.sakanaka@mizuho-ri.co.jp

【来週の注目材料】※（ ）内はみずほ総研予想

- 7日 : 5月の景気動向指数（C I 一致指数111.1、C I 先行指数105.7）
- 8日 : 5月の経常収支（2,111億円の黒字）
: 6月の景気ウォッチャー調査
- 9日 : 6月のマネーストック
- 10日 : 5月の機械受注（船舶・電力を除く民需）（前月比▲4.6%、前年比+1.6%）
: 5月の第3次産業活動指数（前月比+1.6%、前年比▲1.7%）
: 6月の国内企業物価指数（前月比+0.2%、前年比+4.6%）
: 6月の消費動向調査

景況感は悪化したものの、設備投資意欲の回復がみられる結果に

1日に発表された日銀短観（6月調査）では、業況判断D Iが大企業・製造業（+12%Pt、3月調査：+17%Pt）、大企業・非製造業（+19%Pt、3月調査：+24%Pt）ともに悪化した。駆け込み需要の反動減により幅広い業種で悪化がみられた。中堅企業・中小企業の業況判断D Iも製造業・非製造業ともに悪化した。先行きは非製造業にやや慎重姿勢がみられるものの、D Iの水準自体は高く、景況感は総じて良いと判断できる。また、2014年度設備投資計画（土地を含みソフトウェアを除くベース）は、6月調査段階ではほぼ計画が固まる大企業・非製造業が前年比+4.9%となった。けん引役となった2013年度（同+4.4%）に続き、底堅い計画となっている。一方、大企業・製造業は、同+12.7%と2桁増計画に上方修正された。製造業には設備過剰感が残存しており、過去数年は6月調査から下振れる傾向があることを考慮に入れても強めの数字である。総じて設備投資意欲の回復がみられる結果であった。

来週は、経常収支や機械受注などが発表される。

一致C Iは横ばい、先行C Iは低下

7日に発表される5月の景気動向指数は、C I 一致指数が111.1（4月111.1）で横ばい、C I 先行指数が105.7（4月106.5）に低下すると予測する。小売業販売額や卸売業販売額がプラスに寄与する一方、耐久消費財出荷や投資財出荷が押し下げに寄与したため、C I 一致指数は横ばいとなる見込みである。C I 先行指数は、中小

企業売上見通しや消費者マインドが改善したものの、最終需要財在庫率や住宅着工床面積の悪化が続いたことから、4カ月連続で低下するとみられる。

**経常収支（原数値）
は4カ月連続の黒字**

8日に発表される5月の経常収支は、2,111億円の黒字（4月1,874億円の黒字）と予測する。消費増税後の内需減を背景に輸入金額が減少し、貿易収支の赤字幅が昨年度後半に比べて縮小している。第一次所得収支は高水準の黒字が続き、経常収支（原数値）は小幅ながら4カ月連続の黒字となる見通しである。

機械受注は2カ月連続で減少

10日に発表される5月の機械受注（船舶・電力を除く民需）は前月比▲4.6%（4月同▲9.1%）と予測する。消費増税後の先行き不透明感を背景に、年度前半は設備投資の増加ペースが鈍化するとみられ、機械受注は2カ月連続で前月比マイナスとなる見込みである。

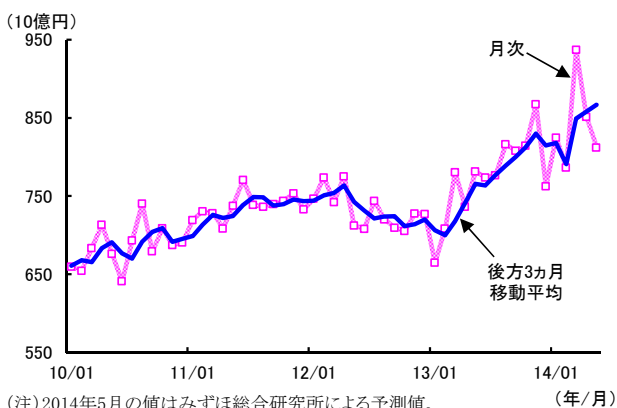
**第3次産業活動指数
は2カ月ぶりに上昇**

同日に発表される5月の第3次産業活動指数は、前月比+1.6%（4月同▲5.4%）と予測する。卸売・小売業が4月の落ち込みから持ち直すことを主因に、第3次産業活動指数は前月比プラスとなる見通しである。

**国内企業物価指数は
前年比プラス幅が拡大**

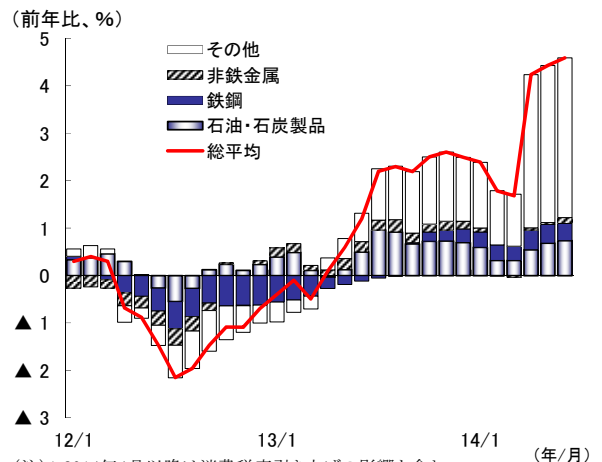
同日発表の6月の国内企業物価指数は、前月比+0.2%、前年比+4.6%（5月前月比+0.3%、前年比+4.4%）と予測する。原油価格の上昇を背景に石油・石炭製品が値上がりし、国内企業物価指数は前年比プラス幅が拡大する見通しである。

図表1 機械受注（船舶・電力を除く民需）の推移



(注)2014年5月の値はみずほ総合研究所による予測値。
(資料)内閣府「機械受注統計調査報告」

図表2 国内企業物価指数の推移



(注)1.2014年4月以降は消費税率引き上げの影響を含む。
2.2014年6月の値はみずほ総合研究所による予測値。
(資料)日本銀行「企業物価指数」

執筆担当～ 坂中弥生

予測担当～ 景気動向指数：徳田秀信、経常収支：山本康雄

機械受注統計・第3次産業活動指数：坂中弥生、国内企業物価指数：風間春香

米国主要経済指標（ダイアリー掲載分）：山崎亮

●当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。

【 来週のダイアリー 】

日付	経済指標等	予想	前回	前々回
7/4(金)	米 独立記念日(米国休場)			
7/7(月)	日 先行D I 一致D I 先行C I 一致C I 景気動向指数(5月速報)	[11.1%] [20.0%] [105.7] [111.1]	20.0% 20.0% 106.5 111.1	27.3% 95.5% 107.4 114.7
7/8(火)	日 経常収支(前年比) 貿易収支(前年比) 国際収支(5月速報) 景気ウォッチャー調査(6月) 現状判断D I 全国企業倒産件数[帝国データ](6月) 中曽日銀副総裁講演(ACCJ・EBC・SCCIJ共催Joint Luncheon)	[+2,111億円] [▲62.7%] [▲8,452億円] - N.A. N.A.	+1,874億円 ▲76.1% ▲7,804億円 - 45.1 733件	+1,164億円 ▲90.9% ▲11,336億円 - 41.6 858件
	米 3年国債入札			
7/9(水)	日 マネーストック(6月速報) M2 前年比 M3 前年比 広義流動性 前年比	N.A. N.A. N.A.	+3.3% +2.6% +2.7%	+3.5% +2.8% +3.2%
	中 消費者物価指数(6月) 前年比	+2.5%	+2.5%	+1.8%
	米 FOMC議事録(6/17・18) 10年国債入札			
7/10(木)	日 機械受注(5月) 前月比 [船舶・電力を除く民需] 前年比 第3次産業活動指数(5月) 前月比 国内企業物価指数(6月) 前月比 前年比 30年利付国債入札 消費動向調査(6月) 消費者態度指数	[▲4.6%] [+1.6%] [+1.6%] [+0.2%] [+4.6%] N.A.	▲9.1% +17.6% ▲5.4% +0.3% +4.4% 39.3	+19.1% +16.1% +2.4% +2.9% +4.2% 37.0
	中 貿易収支(6月) 米ドル 輸出総額(6月) 前年比 輸入総額(6月) 前年比	+350億 ^{ドル} +10.4% +6.0%	+359億 ^{ドル} +7.0% ▲1.6%	+185億 ^{ドル} +0.9% +0.8%
	米 失業保険新規申請件数(~7/5) 30年国債入札	[315千人] [315千人]	315千人 315千人	313千人
	英 英中銀金融政策委員会(9・10日)			
	尼 金融政策決定会合			
	韓 金融政策決定会合			
	馬 金融政策決定会合			

予想：[]はみずほ総合研究所予想、それ以外はコンセンサス(Bloomberg等)。予定は変更になる可能性があります。
日：日本、米：米国、欧：欧州、英：英国、独：ドイツ、中：中国、韓：韓国、印：インド、尼：インドネシア、
泰：タイ、比：フィリピン、伯：ブラジル、馬：マレーシア